

人生100年時代を迎え、人生も働く期間も長くなっている。仕事で求められる能力は大きく変化し、学校教育で得た知識や技術だけでは不十分になってきた。そのため、社会人になってからもそれぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくことが、キャリアを重ねる上で重要になっている。

そこで、新たな知識や技術を習得する「リカレント教育」が注目を集めている。社会変化への対応や自己実現を図るための社会人の学び直しを意味する。

当社が今年7月に県内事業者を対象に実施した調査では、自社で従業員のリカレント教育に「既に取り組んでいる」と答えた企業は16%にとどまり、取り組みは低調だ。「取り組む予定はない」は44%を占めた。

リカレント教育に取り組む上での課題として、「コストがかかる」ことや「人手不足」「時間がない」などの声があり、通常業務との調整が困難な状況がうかがえる。一方、長期的な人材育成の視点

に立ち、資格取得や研修にかかる費用を補助するなど、従業員のスキルアップを積極的に支援する県内企業もみられる。

県内企業のリカレント教育を後押ししようと、三重大学をはじめとする県内の全高等教育機関で構成する「高等教育コンソーシアムみえ」は今年度、産学官金の連携による「リカレント教育プラットフォームみえ」を立ち上げた。そこでは、リカレント教育の推進と県内企業などからのニーズに応える人材の輩出に取り組んでいる。その一つとして、主に企業を対象に、「リカレント教育・リスキリングとはなにか」「ビジネスでの活かし方はどのようなものか」という視点から、実践的な情報提供の場として、8日に伊勢でセミナーが開催された。次回は、来年1月17日に桑名で予定されている。

産学官金の連携により、産業界や地域ニーズに対応したリカレント教育が一層進展し、地域全体が活性化していつてほしい。